

Title	複写機開発競争の分析 - 1970～1980年代におけるキャノン対ゼロックス -
Sub Title	
Author	城座和宏(Jiyouza, Kazuhiro) 古川公成
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第847号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0847

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	城座 和宏 (富士ゼロックス株式会社)	主査 古川 公成 副査 小野桂之介 青井 倫一
所属	古川 公成 研究室	

複 写 機 開 発 競 争 の 分 析
- 1970～1980年代におけるキャノン対ゼロックス -

キャノンは、1970年代から1980年代にかけてPPCの分野で競争他社に比べて高い成長を続けている。

本論文の目的は、第1にはキャノンの成長をもたらした技術的な要因を分析すること、そして第2にはその技術的な要因が他の業界・企業にも当てはまるのかを検証することにある。

分析の方法として、まず、キャノンの成長過程を明確にするためにPPC市場規模及びシェアの推移、キャノンとゼロックス・グループの1970年代から1980年代にかけての製品開発状況を分析し、次にキャノンの研究開発の特徴を技術的な側面から分析した。

その結果、キャノンの研究開発における7つの特徴が導き出された。

次に、これら7つの特徴の他業界・企業への適用可能性を検討するため、企業の製品開発活動に影響を与える要因について検討されているいくつかの論文の観点から、キャノンにおける7つの研究開発の特徴を検討した。検討に利用した論文は、1つは野中・竹内の「新たな新製品開発競争」であり、もう1つは、アバナシーの「Patterns of Industrial Innovation」である。

その結果、キャノンの7つの研究開発における特徴は、野中、竹内のいうリーディング・カンパニーにおける6つの特徴を生み出すために必要な要因であり、他の業界・企業にも当てはまることがわかった。

そこで、本論文の結論として企業が成長するための技術的な要因として、開発部門内にイノベーションを発生させるためのいくつかの提言を行った。